

第59回総合科学技術会議議事録（案）

1．日時 平成18年9月22日（金） 10時21分～10時40分

2．場所 総理官邸4階大会議室

3．出席者

議長	小泉 純一郎	内閣総理大臣
議員	安倍 晋三	内閣官房長官
同	松田 岩夫	科学技術政策担当大臣
同	竹中 平蔵	総務大臣
同	谷垣 禎一	財務大臣
同	小坂 憲次	文部科学大臣
同	二階 俊博	経済産業大臣
同	阿部 博之	
同	薬師寺泰蔵	
同	柘植 綾夫	
同	本庶 佑	
同	黒田 玲子	
同	庄山 悦彦	
同	原山 優子	

4．議事

（1）小泉内閣の科学技術創造立国への歩み

（2）その他

（配付資料）

資料1	小泉内閣の科学技術創造立国への歩み
資料2-1	平成19年度科学技術関係予算概算要求の概要
資料2-2	平成19年度の科学技術振興調整費の概算要求方針について
資料3	第57回総合科学技術会議議事録（案）

5 . 議事録

(1) 小泉内閣の科学技術創造立国への歩み

【松田議員】

ただいまから、第 59 回「総合科学技術会議」を開会します。

本日の議題は、お手元の資料にありますとおり、2 つの予定です。

それでは、議題 1 「小泉内閣の科学技術創造立国への歩み」に入ります。

小泉内閣は、平成 13 年 4 月 26 日に発足し、今月で 5 年 5 か月となりました。この間、科学技術政策につきましては、平成 13 年度～17 年度は第 2 期科学技術基本計画、及び本年 4 月からは第 3 期科学技術基本計画に基づき、今日まで科学技術の振興・改革を進めてまいりました。

本日は、この 5 年間の科学技術政策を総括する意味で、このような小泉内閣の科学技術創造立国に向けた歩みについて、御報告させていただきます。

それでは、阿部議員から御説明をお願いいたします。

【阿部議員】

資料 1 をごらんいただきたいと思います。今、大臣から御紹介がありました 5 年 5 か月を 1 枚の紙に書くというのは相当大胆なんです、それが資料 1 でございます。

左の上にまいりまして、記憶に新しいところでは、第 3 期科学技術基本計画という大方針を決めていただきました。

右の上にまいりまして、厳しい財政事情であっても、科学技術は「明日への投資」として重点投資をすると総理が明言されたこともございまして、25 兆円が明記されました。財政難の中で、我が国の未来への道を政府自らが明らかにしたということで、大変意義があるわけであります。

しかしながら、こういった財政事情の中、当然のことではあります、選択と集中によってメリハリづけをして予算編成をしていくということで、こういうやり方が相当程度定着してきたものと考えます。

さて、改革の成果がいろいろと書いてあります。まず基礎研究であります、これはかなり推進をしたと見ております。ノーベル賞がそこに書いてありますが、毎年 10 月の初めから発表がございまして、吉報を待っているところがございます。

イノベーションの創出であります、初めは発明とか発見から出発をいたし

まして、いろんな苦難な道を経て、数千億円から数兆円という市場規模のものが幾つか出てまいりました。大体 25 年とか 30 年ぐらいかかっているわけであり、優れた基礎研究が前提ではありますが、この間、政府が適切な時期に支援をしたことと、ある時期から強力な産学連携が進められたことが、この成果に結び付いているわけであり、

こういった例を第 3 期、第 4 期で倍増、倍々増していくことができれば、後追い改良型を基調とする日本の産業構造に大きいインパクトを与えるわけであり、そういったことからイノベーション創出総合戦略を決定していただいたわけでございます。多面的な戦略が必要でございます。

その他、下にありますように、国際協力であるとか地域科学技術も新しい展開がございましたが、何よりも国立大学の法人化に代表されます構造改革が進みました。これは引き続き進めていかなければいけない大きい課題でございます。

知的財産戦略は小泉総理の号令の下、全く新しい時代に入ったといっても過言ではないと思います。今、進みつつあります。

人材育成はすべての基盤であります、さまざまな課題がありまして、それが明確になってきたと言えます。

右の方に「主な成果例」と書いてあります。これはどういうことかと言いますと、集中投資をした政府研究開発投資のうちの成果の例でありまして、極一部であります。例えば重粒子線を使いまして、従来、手術が極めて困難な部位にできたがんを治療することができたのもその一例でございます。

左の上に戻っていただきまして「環境と経済を両立」、「国際競争力強化と経済の持続的発展を実現」、「高齢化社会における健康、安全・安心な国家を実現」と書かせていただいておりますが、いずれも科学技術の発展が不可欠でありまして、同時に科学技術政策の方向をこのように明確にして、それによって実現をしていくというプロセスが構築できたのも、小泉内閣の大きい成果の一つと考えます。

今後は小泉内閣時代の成果を更に発展させ、改革を更に進め、また、科学技術を国民に更にわかりやすいものにしていくとともに、国民とともに考える。これが私どもの今後の役割と考えております。

5 年 5 か月の間、日本はこのように非常に大きく変わったと考えます。このリーダーシップを取っていただきました小泉総理に敬意を表して報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【松田議員】

どうもありがとうございました。

それでは、有識者議員の皆様から、順次御発言をいただきたいと思います。
薬師寺議員からお願いいたします。

【薬師寺議員】

科学技術は科学者だけの効率化のためのものではありません。社会、国、諸外国へ貢献するのが科学技術です。そのような流れで、小泉政権の下で安全に資する科学技術を立ち上げることができました。これはやはり社会に対する貢献ということで、大きなものだと思います。

地方の大学と地方公共団体が連携した、地方の知の拠点を立ち上げることができました。やはり強い地域をつくるために、これから大学の再編も必要だと思います。

モノから人への重点移動もできました。今後大量に退職するエンジニアが諸外国に貢献するとか、高専とか職業高校の中間のエンジニアの育成もこれから重要になると思います。本当にありがとうございました。

【松田議員】

それでは、柘植議員。

【柘植議員】

一点感謝と、これからの課題と決意を申し上げたいと思います。小泉総理を始め閣僚の皆様方が科学技術立国の国づくりについて、毎月時間を割いていただいたことに大変感謝しております。

我々が意識している以上に、国民や世界に対して、総理自らが議長をされている総合科学技術会議の存在と波及効果は、極めてはかり知れないものがございます。

一方、これからの課題は、第3期基本計画を真に国づくりに具現化していくこと。まさに科学技術イノベーションの実現であります。この点はまだまだ国民の視点から見えにくい状況の下、説明と実行責任を果たしていかなばなりません。

経済成長戦略大綱と連動した5年、10年のスパンの科学技術イノベーションの実現と、10年～20年の視点でのイノベーションの源づくりの両面から、私も微力ながら力を尽くしたいと思います。

【松田議員】

本席議員、お願いします。

【本席議員】

先日メルマガを拝見いたしまして、総理は自信と誇りに満ちた日本社会をつくりたいという使命感でスタートされたというふうに拝見いたしました。その小泉改革の中心の一つに科学技術を位置づけていただきまして、本当にありがとうございました。

御承知のように我が国は、戦前は軍事力、戦後が経済力と次々に国際的に第一級のものになったわけではありますが、現在、次の目標というものを明確にしていく必要がある。それが国民に自信と誇りを与えるものだと思います。

私はここに文化力、総理もそういう言葉をお使いになりますが、是非これを位置づけていただきたい。学術と芸術なる文化力、特に学術は経済力、政治力の根源のみならず、国民に自信と誇りを持たせ得る非常に重要なものでございますので、その根幹として私どももこの目標の実現に微力を尽くしたいと思っております。どうもありがとうございました。

【松田議員】

黒田議員、お願いします。

【黒田議員】

まず5年5か月、小泉内閣で科学技術の振興に大変御尽力いただいたことを感謝いたします。

いろいろな改革が進んできたんですが、まだ端緒についたばかりだと思います。初等・中等教育、大学・大学院教育なども世界のトップレベルから見ると、やはり後れをとっているような気がします。

海外に行きましても、どうしても日本に行かないと研究ができない・行きたいというような拠点にはなかなかないのではないかとこのことを痛感しています。

5年間で随分改革が進んだのですが、その5年間に世界の科学技術あるいは研究、教育に関する事情も大きく変わってきたと思っています。それは研究そのものもそうですし、アジアが台頭したこともあります。

これからは日本国内だけに目をやるのではなく、世界の動向。それから、10年、20年先を視野に入れて、小泉内閣で始まった新しい潮流を確実なものにしていただきたいと思いますし、私も微力ながら努力させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

【松田議員】

庄山議員、お願いします。

【庄山議員】

どうもありがとうございました。

今朝ほど、松田大臣、小坂大臣が出られました、科学オリンピック委員会設立の発起人の集まりがありました。これはここの場で総理が、もうとにかくちゃんとやれよと種をまいていただいたお陰です。これから実を育てるために、産業界としてもやってまいりたいと思っております。

2点目は、先ほどの資料1にもございました、垂直磁気記録の例でございます。これは27年間の苦勞の結果、ようやくものになったというものでございまして、産学連携から始まったわけでございます。途中でやめそうになったときに、やはり新しいイノベーションが生まれるぞということから、国のファンドによって、そこから先に息づかせまして、何とか「死の谷」を乗り越えて、ものになったものでございます。恐らく近々にはほとんどのハードディスクがみんな垂直磁気記録の形になると思っております。そうしますと今の何倍、うまくいけば10倍ぐらいの記憶容量になり、1つのディスクで何百も映画が入るとか、そういうものができるようになると思います。科学技術にはある程度時間がかかるものもあるんだということを十分に御理解いただきたいと思います。

3点目はイノベーター日本ということで、ITとかものづくりなどをはじめとする科学技術を大事にしていくという意味におきまして、次期政府にも小泉内閣で行われましたことを引き続いて頂くよう、是非よろしく願い申し上げます。

【松田議員】

原山議員、お願いします。

【原山議員】

この5年間、科学技術政策が日本の大きな顔になったことが大きな成果だと思われま。また、科学技術だけではなく、今度は経済効果という経済と科学技術との橋渡しがこれからの大きな柱になると思いま。

その中でもその原動力となるところは、やはり大学だと思いま。その大学の法人化が今までの足かせを取り除いたという点で大きな改革だと思いま。

これを今度はいかに活用していくか、大学自体がいかにマネージしていくかが大きなことになりますけれども、それとともにやはり拠点形成の中でも、もう一つ考えていただきたいのは、その前の段階、高校から大学への橋渡しも含めて高校というものをもう少しパワーアップしなくてはいけないことを認識しております。その辺のところも踏まえた上で、今後、科学技術政策の中で貢献できればと思いま。よろしくお願いいたしま。

【松田議員】

ありがとうございました。

大臣の方から御発言はございますか。小坂文部科学大臣、いかがでしょう。

【小坂議員】

ありがとうございます。今、庄山議員の方からお話をいただきましたように、今朝、子どもたちの科学オリンピックへの参加を強化し、またトータルに体制を整えるということで、日本科学オリンピック委員会を発足させるための設立準備会合を開催させていただきました。

こういったことを始めとしまして、国民の中に幅広く科学、理数を愛するといいますか、育てる心を育てていくことが一番肝要なことだと思っております。

また、御議論の中で、高校生だけではなく、大学、大学院のレベルが果たしてこれでいいのかという大変大きな御指摘もございました。教育面で科学技術に相当ウエートを置いていかなければならないことを痛感しているところでございます。

【松田議員】

ありがとうございました。よろしゅうございましょうか。

活発な御議論をいただきまして、ありがとうございました。

(2) その他

【松田議員】

それでは、次に議題2「その他」でございます。報告事項が3点ございます。

まず平成19年度科学技術関係予算の概算要求の状況について報告いたします。資料2のとおり、科学技術関係概算要求総額は、速報値で3兆9,080億円でありまして、前年比9.3%増でございます。今後、優先順位づけ等のとりまとめを行い、選択と集中の方針の下、メリハリのきいた予算編成を実現したいと考えております。なお、優先順位づけの結果につきましては、10月の総合科学技術会議で報告いたします。

平成19年度の科学技術振興調整費の概算要求方針についてでございますが、資料3のとおり、私と有識者議員でとりまとめさせていただきましてので御報告いたします。

また、4月の本会議で取り上げました、国際科学オリンピックにつきましては、先ほどからお話が出ておりますが、これを国民的な行事に拡大していくことに賛同をいただきました、ノーベル賞受賞者の方々、産業界の方々などの参加を得まして、本日先ほど、日本科学オリンピック委員会の設立準備会合を開催いたしました。私と小坂文部科学大臣が出席させていただきました。今後、政府と関係者が一体となって、具体的な取組みを強化してまいりたいと思っております。

御報告は以上でございます。プレス入室。

(報道陣入室)

【松田議員】

それでは、最後に、小泉総理から御発言をいただきたいと思っております。

【小泉議長(内閣総理大臣)】

この5年間、ありがとうございました。私も就任以来、環境保護と経済発展の両立を図る、そのかぎを握るのは科学技術だと思ってまいりました。お蔭様で皆様方の御指導の下に、科学技術の重要性を多くの国民も識者も認識してきておりますので、世界最先端の科学技術立国を築くためにも、皆さんの御協力をいただきたいと思います。

単に環境と経済発展の両立だけではなくて、この科学技術は健康増進のためにも安全確保の面にも未来のためにも、極めて重要であると思いますので、この5年間の御努力に謝意を表わすとともに、今後も先生方の御指導をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(報道陣退室)

【松田議員】

どうもありがとうございました。

なお、既に御確認いただいております、第57回の議事録につきましては、本会議終了後、公表させていただきます。また、本日の配付資料につきましては、すべて公表することいたします。

以上をもちまして、本日の総合科学技術会議を終了いたします。ありがとうございました。